

NEWSLETTER No.84 ISSN 1340-5578 **TŌYŌ ONGAKU GAKKAI KAIHŌ** The Society for Research in Asiatic Music Jan 20, 2012

社団法人 **東洋音楽学会** **会報** 第**84**号

発行 (社)東洋音楽学会  
 事務所 〒110-0005 東京都台東区上野3-6-3 三春ビル307号 TEL/FAX 03-3832-5152  
 ●E-mail : LEN03210@nifty.com ●ホームページ : http://wwwsoc.nii.ac.jp/tog/

## 目次

第62回 大会レポート	1	会員異動	10
ICTM (国際伝統音楽学会) に関するお知らせ	6	図書・資料等の受贈	11
会員の受賞	8	新刊書籍	11
通常理事会・総会議決事項のお知らせ	8	新発売視聴覚資料	12
会費納入のお願いとお知らせ	9	編集後記	12
第29回 田邊尚雄賞アンケートのお願い	9	第42回 通常総会議事録(抄)・添付資料	13
東日本支部からのお知らせ	9		

### 第62回 大会レポート

(2011年10月8日～9日/京都教育大学 藤森キャンパス)

第1日

#### ◇プレトーク 震災後の民俗芸能の復興

3月11日の東日本大震災により被災地の生活は一変し、人々の生活の中で傳承されてきた民俗芸能も大きな打撃を受けている。プレトーク「震災後の民俗芸能の復興」では、福岡正太氏が被災地における民俗芸能支援の現状と課題をわかりやすく整理して提示した後、「岩手県陸中沿岸における民俗芸能の復興プロジェクト」について、本企画の発案者である中川真氏が全体像を、川口明子氏が普代村における神楽傳承の事例を報告した。中川氏は2006年のスマトラ大地震の時に生活再建のためには文化の復興が不可欠だと感じたというが、中川氏が報告の最後に示した震災後の被災地における芸能活動の映像からも、芸能が地域の人々に力を与えている様子が伝わってきた。川口氏の発表でも、普代村の子ども神楽教室の参加者が震災後増えているとの報告があった。芸能復興をコミュニティーの再生と連動させることを目指すこのプロジェクトは、岩手班と関西班の協働体制をとる。短期的には鶴鳥神楽など巡回する神楽の新規の宿の開拓や、関西公演の実施などにより芸

能の上演機会を作り出し、中期的には岩手県の芸能に関する情報データベースの構築や映像アーカイブの整備を行う。長期的には他地域にも応用可能な芸能の復興モデルや、遠隔地からの芸能支援モデルの構築を見据えている壮大なプロジェクトである。

報告終了後はフロアから各自の体験に即したコメントや質問が多数出され、多くの人が被災地の芸能状況について情報を得られるよう発信していくことの重要性が指摘された。中川氏は報告の中で「支援」とは助けることではなく「寄り添うこと」だと考えたいと述べられた。今回のプレトークをきっかけとして、より多くの学会員が被災地の芸能状況に関心をもち、心を寄せるようになればと思う。

小塩さとみ

#### ◇公開講演会「日本に息づく韓国音楽」

第62回大会初日の公開講演会は「日本に息づく韓国音楽」をテーマに、第1部では韓国伝統芸能公演が、第2部は「日本で活動する韓国人芸術家たちに聞く」と題して、第1部での演奏者たちを話し手に迎えたラウンドテーブルが行われた。当日のプログラム順に沿って、振り返ってみたい。

第1部一番手は、李昌燮氏による杖鼓でソンパン・ソルチャンゴである。刻々と変化していく杖鼓の様々なリズム

型と共に、サンモ(帽子)からのびる紐の動きや、その音楽に同期したステップ、全身の動きも視覚的に楽しむことができた。次々と繰り上げられる李昌燮氏の名人技に拍手を送り、手拍子を叩きながら、聴衆も一緒にステージを楽しめたように思う。

プログラム2番は、金一志氏による僧舞である。僧舞では、袖の長い白い衣装・白い頭巾を身につけた踊り手が両手に太鼓のバチを持って舞う。バチは袖の中に隠れる格好になっているので、ゆっくりと進んでいく重厚な趣をもった音楽の中で、長い袖とバチで拡張されたダイナミックな腕の動き・袖さばきが印象的だった。中間部では舞台上手に設置された太鼓の演奏もあり、後ろ向きに構えながら太鼓を打ったり、バチをもった腕を交差させたり、手首をひねってバチ同士を打ち鳴らしたりと、洗練された無駄の無い動き、しなやかで優美な所作が見事であった。

プログラム3番は、安聖民氏によるパンソリ《水宮歌》より、スッポンとウサギの登場するコミカルな場面上演された。舞台上には、安聖民氏のご自身で作成されたという韓国語字幕と日本語対訳が表示され、聴衆の理解を助けた。「ウサギに投げ飛ばされたスッポンが京都まで来てしまった」というユーモアたっぷりの演出があったり、部分的に日本語のところがあったりと観客の笑いを誘った。こうした演出は、第2部で安聖民氏が在日韓国人として「私にしかできないソリを」つくっていききたいのだと語られていた実践のひとつであるということだ。

最後に全員による演奏として、コムンゴ奏者に朴善英氏を迎え、前半はコムンゴ散調、後半は民謡「ソングジュプリ」が演奏された。

第2部のラウンドテーブルは、「三氏の音楽家・舞踊家としての個人史」をいわば「生々しい証言」(植村幸生氏)として聞くことのできる貴重な機会となった。三氏それぞれが「学ぶ、教える、演じる/創る」という活動の中で、どのように師や在日同胞・日本人らと出会い交わってきたのか、幼少から現在までの個人史が司会の植村氏によって丁寧に聞き出された(舞台には各氏から提供された写真も映し出された)。三氏にとって師をはじめとする多くの人々とのつながりは「自分の可能性を広げる」ものであり、韓国・日本・自己とが不可分に関係し絡み合いながら「日本に息づく韓国音楽」が生成され、また今後も生成されていくのだということが聴衆にもよく伝わったと思う。在日という、韓国在住の芸術家とはまた異なる状況の中で、自らの音楽や舞踊について深く考え実践を重ねてきた彼・彼女らが、今後どのような活動を展開していくのか、大いに期待したい。

山下正美

ラウンドテーブルの様子



#### ◇田邊尚雄賞授賞式・受賞祝賀会

平成23年10月8日、京都教育大学での東洋音楽学会第62回大会で、第28回田邊尚雄賞授賞式とその受賞祝賀会が開かれました。受賞者は水野信男(兼編者)、新井裕子、飯野りさ、斎藤完、谷正人、樋口美治、米山知子の7氏で、授賞対象は、上の7名に、西尾哲夫(兼編者)、堀内正樹(兼編者)、青柳孝洋、小田淳一、小杉麻李亜、樋口ナダの6氏を含め13名の方々が執筆された、『アラブの音文化—グローバル・コミュニケーションへのいざない』(東京:スタイルノート、2010年)でした。

16時20分から、同大学講堂において授賞式が行われました。学会員のうち、斎藤完氏を除く6名の受賞者が壇上に並びました。まず選考委員会の茂手木潔子委員長が選考理由を述べられ、その中で、アラブを例にした音によるコミュニケーションの意義を研究されたこと、言語と音楽の多様性を研究され、さらに座談会によって執筆者が立場を共有されたことなどが、本学会への大きな貢献であることを指摘されました。続いて、金城厚会長が水野信男氏に賞状を授与され、賞金を水野氏と樋口氏に渡されました。受賞者を代表して水野氏が挨拶を述べられ、4年半の共同研究の成果であること、アラブの「音楽」ではなく、多様な音を主体して音を総合的に捉えるために「音文化」を対象にしたことを強調されました。

午後6時半から大学会館食堂にて、田邊尚雄賞受賞祝賀会が久万田晋氏(沖縄県立芸術大学)の司会で開催されました。乾杯に続いて、お祝いの演奏があり、京都の柳川流三味線の伝承者であり、また、同大学講師である林美恵子師が林美音子師とともに、柳川三味線で作物『荒れ鼠』を演奏されました。歓談のあと、受賞者がお一人ずつ今回の著作とご自分の研究について、短いながら、興味深い話をされ、西アジア音楽の研究、そして、共同研究が、新しい時代に入ったことを参会者に実感させました。

徳丸吉彦

第28回田邊尚雄賞授賞式



第2日

◇シンポジウム「日本に息づくガムラン音楽」

今大会のシンポジウムは「日本に息づくガムラン音楽」というテーマで開催された。最初にコーディネータの福岡正太氏から議論のポイントが示された。それは日本人にとって「血にない音楽」を行い活動することの意味とは、というものであった。

パネリストは発表順に、森重行敏氏(ランバンサリ)、梅田英春氏(沖縄県立芸術大学)、中川真氏(大阪市立大学)。まず森重氏が過去数年間の国内外での活動を映像資料を交えて紹介し、NPO法人としてのガムラン活動を立ち上げた背景などについて解説した。梅田氏は沖縄という土地でガムラン活動を行うことが沖縄の人々にとってどのように作用するかに注目した発表を行った。それによれば沖縄の人々は異口同音にガムランが沖縄の音楽と「似てるさ」と言うこと。だがそれが強調されて繰り返されると「結局は違うさ」という評価に収束しているようだという感想である。中川氏は、自らの活動を障害者や社会的弱者との積極的連携の中で展開する意義を映像記録とともに発表した。

これらの発表とそれに続く議論の中で、今日既に日本におけるガムラン活動が研究・技術習得・演奏という一元的な流れではなく、社会の諸相で個別のリアリティと目的意識をもって多元的に展開されていることが明らかにされた。「血にない音楽」から「血と関係のない音楽」へガムランがシフトしつつある様子がうかがえた意義深いシンポジウムであった。 皆川厚一

◇研究発表1A(司会:小塩さとみ)

音を合わせる経験と身体—日本における「韓国音楽」の生成—

田中理恵子

本発表は、日本における韓国音楽の実践として、日本のある地域の祭りで演奏されるブンムルを事例に取り上げ、演奏者が集団のなかでいかに音を合わせるかについて考察するものであった。映像と発表者のフィールドワークに基づく事例報告の後、結論として、韓国音楽の経験や記憶を持たない日本在住の演奏者たちが演奏の場における「双方向的相互作用」のなかで「韓国音楽」を創り経験していくことが示された。この結論からは事例に固有の特徴が見えてこなかったため、フロアからは、演奏の場で実際にどのような相互作用が起きているのかという具体的実態を問う意見が続き、また相互作用を細かい要素に分けて分析する必要性などが指摘された。残念ながら、当日の質疑では事例に固有の特徴を描き出せるような具体的回答は示されなかったが、発表者は長期にわたってフィールドワークを行い、自身もブンムルサークルで指導者として演奏を続けているため、こうした活動を経た発表者ならではの視点が今後の研究に活かされることを期待したい。

新堀欽乃

ブラジルにおける琉球古典音楽の継承

—渡航音楽家(継承者)による伝承の影響について—

遠藤美奈

発表では、ブラジル日系社会における琉球古典音楽の伝承過程について、具体例を挙げながら手際のよい説明があった。ブラジルでは1953年以降に伝承団体の組織化が始まり、本拠地沖縄にある団体の支部として活動が展開した。その活動においては、山内盛彬や和宇慶朝幸など故郷から訪れた演奏家(研究者)が重要な役割を果たし、彼らは五線譜入り楽譜の頒布、洋楽器の導入、メトロノームの採用などを通して、琉球古典音楽の「国際化」を目指した。以上の発表に対してフロアからは、本拠地沖縄での伝承活動とブラジルにおけるそれとの関係について様々な質問があり、充実した議論が交わされた。特に、ある芸能が海外へ伝播し伝承活動を展開する際、本拠地側のコントロールが及びにくくなるため、伝播先ではなくむしろ伝播元の継承者が変化に寛容である場合が多いという早稲田みな子氏の指摘は、発表者が結論で示唆した内容をより具体的に説明するものとして興味深かった。こうした伝承方法の変容には、家元制度の「国際化」も大きく関係していると思われる。今後の研究の進展が楽しみである。 新堀欽乃

◇研究発表1B(司会:蒲生郷昭)

常磐津林中の自筆浄瑠璃本調査報告

—盛岡市先人記念館所蔵本を中心に—

前原恵美

浄瑠璃太夫の使用するいわゆる床本は、たとえそれが有力者のものであっても、その死後に散逸してしまうことが多い。そうした貴重な資料に着目され、要所を捉えた一覧を提供された点を高く評価したい。中間報告の由なので、さらに発展的な成果を準備されていると思われるが、次のようなことも今後の視野に加えていただくことを願う。

他の機関等に所蔵される床本資料との関連性。例えば国立音楽大学附属図書館に「小文字太夫」署名の床本が数点所蔵、公開され、林中が使用したという伝聞もある。その真偽や盛岡本との関連はどうか。

初代林中の「自筆」認定を含め使用実態の慎重な精査。太夫が使用する床本は、かつては門弟や筆耕業者が代筆することも多かった。したがって自筆の真偽より、まずは本人の使用本である裏付けがあればこと足りると思われ、この点については盛岡本の大半は問題なしとみられるが、発表者が指摘されたように、没後の年記があるなど疑問の残る資料もある。複数名が筆記したり使用した可能性や、誰が代筆したかの考証を深めることにより、伝聞とは異なる成立事情や意外な使用状況が新たに判明する可能性もあるだろう。

竹内有一

俎徠礼楽論の特徴

—朱熹礼楽論の受容と変容を手掛かりに—

陳貞竹

古文辞学を提唱した荻生俎徠であるので、彼の礼楽論は『楽記』や『論語』の古注等に拠るものとして考えてしまうのであるが、陳さんの立論は、朱熹の礼楽論からの影響を前提として先ず押さえ、その上で両者の論を丁寧に比較し、俎徠の礼楽論の特徴を浮き彫りにしていくというものであった。発表はレジュメに則して進行したが、数年にわたる研究成果を圧縮したものと拝察され、この発表を単独で聴く筆者には十分に消化しきれなかった。しかし、俎徠は「異なる音調を用いた歌唱と楽器の合奏」を重んじたという指摘など、興味深い指摘が数多くあり、陳さんが最後に主張されていた比較研究の有効性は十分納得した。朱熹と俎徠の礼楽論の異同は特定の個人に帰する問題なのか、あるいはもっと深い問題と関わってくるのか、両人の思想史上の大きさを考えると、多くの課題設定が可能だと思われるので、今後も発展性のある問いかけを継続して発信されることを期待したい。

遠藤徹

◇研究発表2A(司会:増野亜子)

バリのゴン・クビヤールの演奏様式に関する一考察

—ウガル奏者の音楽的役割について—

鈴木良枝

バリ島ガムラン音楽では一般に、リズムパートの両面太鼓クンダンと、旋律パートの鍵板楽器ウガルが協力しながら演奏を指揮するとされ、その力は前者が後者に勝るとされている。発表者は、グラダック集落のゴン・クビヤール様式の事例を紹介し、ウガル奏者がクンダンの権限を越えてアンサンブルを指揮する例があることを示した。1970年代後半の録音資料(舞踊曲《オレグ・タムリリンガン》)の採譜から、独特のテンポ遷移様式パパッ・ビュウ(バナナの葉柄)の例などを示した。集落が1942年から指導者として迎えた作曲家イ・ワヤン・ロットリングの個人様式(嗜好)がウガル奏者に引き継がれ、この集落の演奏様式として定着するに至ったとの報告である。個人創造による個人様式が、口頭伝承における集団様式として結晶する事例として、本発表を興味深く聞いた。この研究が、より大きなパースペクティブの中で発展することを期待する。フロアからは、視聴覚資料提示への要望や、他のガムラン様式や舞踊との関連性についての質問があった。

小日向英俊

即興演奏を身につけるプロセス

—シタールの学習と演奏を中心に—

丸山洋司

発表者は、北インド音楽の即興演奏がどのような過程で身につけられるかについて、シタール学習者として即興演奏を学んだ約10年間の成果を分析した。学習過程では即興演奏の方法が教授されず、短い旋律句やリズム型が教授されること。それらを演奏に使用する方法は、学習者にゆだねられていることを報告した。打楽器との練習により即興を身につける過程が、文化の「獲得」に当てはまること、ターン(短い旋律句)の練習による即興への応用が、認知心理学で言う反復練習から自動化への過程として考えられるとした。報告者の経験に照らすと、即興を身につける過程は、教授内容の反復練習、記憶、身体化、自身での事前創作、他の演奏者(師匠含む)の模倣、打楽器奏者からの学び、師匠などからの批判など、様々な要素が存在すると考える。現地における教授者-学習者の学習実践や音楽活動を多数観察し、これらを整理して研究を進められるよう期待する。

小日向英俊

◇研究発表2B(司会:田鍬智志)

江戸時代の「楽家」と音楽伝承のアイデンティティ

—龍笛と箏の唱歌を中心に—

寺内直子

寺内氏の分析は唱歌の仮名だけを比較しており、唱歌の旋律も楽器の旋律も比較したわけではない。寺内氏の主張の焦点は、箏の東儀文均譜には仮名の用法が2つ見られることである。そのため、用意した楽譜には偏りがあり、龍笛・箏の流派と時期を満遍なく調べたわけではない。特に南都の龍笛は上家の譜のみを用意したが、その他の芝、奥、西京、井上、乾、新の各家の譜は用意されなかった。また、南都の箏譜も用意されなかった。スクリーンを見た限りでは結論を認めるには不十分であり、異なる伝承の源流である楽譜それぞれを具体的に例示する必要がある。会場からは2名が質問をしたが、そのうち蒲生美津子氏の2つの質問を書き記したい。(1)「抜頭」は京方と天王寺方で箏の仮名と唱歌・楽器の旋律が違うが、文均譜ではどう書かれているか? に対し、「抜頭」の譜は手元に用意なく答えられないとした。また、(2)方言(の音声・音韻)の違いが仮名に反映されたか? に対し、不明だと答えた。なお、発表内容の重さに対して、大会規定の発表時間と質問時間はあまりに短すぎた。 鳥谷部輝彦

江戸末期から明治期におけるはやり唄、座敷唄

—明治期の大津絵節の旋律型と音楽的特徴—

寺田真由美

寺田氏は21個の録音を分析した。大津絵節の音は歌と三味線でできているが、寺田氏は歌に重点を置いた構造を示し、大津絵節には定まった節はないが、節が高低する大まかな動きが大津絵節の全体にほぼ共通し、それを大津絵節の楽曲構造とした。ただし発表時間が短かったため、寺田氏が用いた録音は、寺田氏の主張する構造と特徴を非常に強く備える録音であった。その他の録音でも歌い手の個人様式を含めて寺田氏の主張に一致するかどうか、厳密に報告してほしい。会場からは4名が質問したが、そのうち2名の質問を書き記したい。(1)レコードの普及によって大津絵節を歌うことが盛んになったか? に対し、明治期以前は大衆的なはやり唄であったが、明治から昭和に多くのレコードが売られた時期には既にあまり歌われず、むしろ聴いて楽しむようになっていたと答えた。(2)一般的に民謡には多くのバリエーションがあるが、大津絵節には共通する音楽的様式が本当にあるのか、または、大津絵節の全体に同一の音楽様式を見出そうとする発想が本当に妥当であるか? に対して、慎重に検討したいと答えた。

鳥谷部輝彦

◇研究発表3A(司会:龍村あや子)

バリにおける青銅製楽器の需要増加によるガムラン鍛冶の変容

杉山昌子

バリ島東部のティヒンガン集落で活動するガムラン鍛冶の、その生産構造や流通形態を通して今日の状況について報告。とくに1980年代以降、楽器の発注が増大したことで、楽器製作の分業化・下請け化・機械化など、多様な変化があらわれたが、それは同時に、鍛冶をめざす集落民の増加、楽器製作技術の伝承の促進といったプラスの効果を生んだという。なお途中、アメリカの文化人類学者ギアツへの言及があったが、かつて彼がモロッコの古い町セフルーのメディナで物流調査をしたことを、私は思い起こした。

近年、日本人のバリ・ガムラン研究は、研究者の層も厚く、ひろがりや深化が顕著である。そんな状況下で、本報告のような音楽社会学的研究も、今後、脚光をあびることだろう。ただ聴者の私としては、ガムランという青銅の楽器が、どのように作られるのか、その実際の製作過程の探究のほうに、より興味があるのだが。 水野信男

20世紀以降のキルギスにおけるコムズの変化

ウメトバエワ・カリマン

キルギスを代表する国民的な三弦の撥弦楽器「コムズ」の近代的变化に関する報告。コムズはトルコ語「クズ」に由来する。日本音楽史でも三味線の祖先としての「火不思」(クズ)が登場する。発表者はキルギスのコムズの生態を、旧ソ連成立以前・旧ソ連時代・旧ソ連崩壊以降という三段階の歴史の流れに沿って、比較観察している。とくに旧ソ連時代には、コムズは西洋化され、フレット(柱)がついたという。そこではレパートリーに、クラシック音楽が参入し、ピアノ伴奏もつけられた。しかし旧ソ連崩壊以降は、ふたたび無柱になったようだ。フレットをつけることで音程は固定するが、そのかわり旋律の微妙な表現はむずかしくなるだろう。また、弾き方も変化する。現代、コムズがふたたびその原型を取り戻したということは、伝統的なキルギス音楽への回帰を意味しているのだろうか。アラブのウードも中世にはフレットがついていたようだが、いまはない。 水野信男

ウイグル音楽のジャンル—セネムとその音楽構造—

アブドセミ・アブドラフマン

この発表では「セネム」というウイグルの古い歴史をもつ民間舞曲がとりあげられた。地域民俗性、歌舞方式、リズム・パターン、旋法など多方面からのアプローチを試み

られたが、セナムは元来、歌と器楽伴奏つきの大規模な舞曲の音楽様式で、これを短時間にクリアすることは至難の業だとおもった。私はむしろ、そのセナムの音楽構造の説明のなかで出てきた「ムカーム」とか「ウスール」などのテクニカルタームに注目した。

ウイグルでは「ムカーム」は器楽・歌唱・舞踊からなる伝統的な古典組曲をいうが、その語源とされるアラビア語の「マカーム」は旋法を意味する。一方、「ウスール」はセナムでは舞踊を指すが、トルコ音楽では「リズム周期」である。ウイグルを含む中央アジアの音楽が、オスマン帝国の版図の拡大にともなって、西アジアのイスラム音楽とさまざまなパラダイムでつながり、展開した様相がみてとれて、興味深かった。

水野信男

#### ◇研究発表3B(司会:塚原康子)

##### 京都の幼児教育黎明期における唱歌の導入

##### —音楽取調掛伝習生が遺した楽譜史料をもとに—

丸山彩

明治期にどのような形で西洋音楽が教育現場に導入されたかという実態については、まだまだ明らかになっていない部分が多くあります。この研究は新たに発見された史料を基に、少しずつ解きほぐしていこうとする試みの1つです。中心となるのは当時の京都府女学校教員の伊藤よね(1864年生)による「譜面」と「幼稚園譜面」。詳細な配付資料とともに丁寧な考察が重ねられました。伊藤は音楽取調掛において「唱歌取調」として伝習を受け、後に京都で幼児教育に携わった人物で、残された史料からは『幼稚園唱歌集』(明治20年刊)に収録される唱歌が、明治10年代後半にはすでに京都に伝わっていたということがうかがい知れます。これまで東京の中央政府を扱うことを主としていた研究に加えて、地方での広がりがどの様であったのか。京都府女学校付属幼稚園という限られた枠内ではあるものの、あまり知られることのなかった事実が分かって来ました。教材となった唱歌のみならず、教育の実際や教職員の活動などについても調査・研究が進むことにより、さらに具体的な状況が見えてくることが期待されます。

瀬山徹

##### 邦楽調査掛における俗謡調査

権藤敦子

丸山さんの明治期の洋楽導入(唱歌教育)についての発表に続いて、邦楽調査掛を対象とした研究が2件。権藤さんの発表は「邦楽」という用語にまつわる問題点を洗い直そうとする意欲的な取り組みです。わけても、高野辰之の存在に注目をし、この時期の音楽状況を当時の文化行政

にまで踏み込んでその「全体像」の中で捉えようとした点は特筆されて良いでしょう。ただ、前段で調査掛そのものの説明に多くの時間が割かれたため、目指す論点には十分に到達しなかったのが惜しまれます。質疑応答でも新たな知見を求める指摘がありました。しかしながら、必要な知識を共有することが議論の前提であるとして、慎重に準備をなさっている様子は良く理解出来ました。ぜひ、機会を捉えて本題を展開してくださることを望みます。

瀬山徹

##### 邦楽調査掛による「調査」と「保存」の意味

##### —長唄の五線譜化を中心に—

大久保真利子

同じ邦楽調査掛を扱いながら、権藤さんがそれを支える「思想」を大きな射程に捉えていた一方で、大久保さんの発表はその「方法論」に焦点を絞った研究です。豊富な資料を提示しながら、「調査」と「保存」とそれぞれの目的に沿って事業が進められていたのではないかと指摘がなされました。録音にのみ「保存」の語を充てること。また、長唄の五線譜化には「調査」の意味あいもあることなど興味深い事実も提示されました。ただ、いくらか用語法に不明なところもあり、質疑の中でもう少し議論の展開があればなお良かったでしょう。

邦楽調査掛については、それが東京音楽学校内に設立される経緯、その概要の説明など2つの発表で重複するところもかなり見受けられました。パネルディスカッションのような形態も一考であったかも知れません。さらに、「洋楽」の導入と「邦楽」の調査という明治期における大きな潮流については、個別の研究に留まることなく今後も何らかの形で共同して、継続した調査・研究が必要でしょう。例えば、このセッションの司会を担当してくださった塚原康子さんなどを中心に、本学会が支援することも含めてプロジェクト立ち上げといった検討がなされれば嬉しく思います。大きな成果が期待できるのではないのでしょうか。

瀬山徹

##### ICTM(国際伝統音楽学会)に関するお知らせ

##### 1. 第41回ICTM世界大会報告—メモリアル大学(カナダ)

2011年7月13日から19日にわたり、第41回ICTM世界大会が、カナダのニューファンドランド島、セント・ジョンズに位置するメモリアル大学にて開催されました。50以上の国から500人以上の発表者・参加者が集まり、研究発表、フィルムセッション、ラウンドテーブル等を含む、合

計 120 以上のセッションが行われました。日本国内・国外在住の日本人研究者による発表も、10 以上ありました。また本大会では、中国および南アフリカの学生の参加が多く、目を引きました。

大会期間中には、The SOUNDshift Festival という音楽の祭典も催され、地元を代表するアーティストを中心とする 5 つのコンサート、32 のワークショップが行われました。大西洋を挟んですぐにヨーロッパという位置にあり、また 1949 年までイギリス植民地であったことから、やはりイギリス系音楽文化が色濃く感じられました。また先住民独特の歌唱も印象的でした。恒例の学会中日の遠足では、報告者は渡り鳥のコロニー (群居地) を見学に行きました。道中、年配のバスガイドが歌ってくれた地元のバラッドは味わい深く、また雄大な空と海、鳥の群れの迫りに圧倒され、思い出深い遠足となりました。

この大会を区切りとして、新副会長に前事務局長の Stephen Wild (オーストリア)、新事務局長に前通常理事の Svanibor Pettan (スロヴェニア)、新秘書に Carlos Yoder (スロヴェニア)、そして新理事に Naila Ceribašić (クロアチア) が就任しました。事務局長の変更に伴い、ICTM 本部はスロヴェニアに移転しました。連絡先アドレスは変わらず [secretariat@ictmusic.org](mailto:secretariat@ictmusic.org) です。

## 2. Yearbook for Traditional Music のオンラインでの閲覧

2012 年 1 月より、ICTM の機関紙である Yearbook for Traditional Music の創刊号 (1969 年) から最新号までの内容が、JSTOR (ジェイストア <http://www.jstor.org/> : コアな学術雑誌のオンライン・アーカイブ) で閲覧できるようになりました。

## 3. ICTM 会報のオンライン化

ICTM の会報 (Bulletin) が、2011 年 10 月号 (119 号) から完全オンライン化されました。これまでのハードコピー版よりも内容が充実し、カラー写真も豊富、また洗練されたレイアウトで、大幅に改善されました。オンライン上の最初の会報 (119 号) は以下の URL で、どなたでも閲覧できます。

<http://www.ictmusic.org/sites/default/files/documents/Bulletin-ICTM-119-October-2011.pdf>

## 4. 第 42 回 ICTM 世界大会のお知らせ

場所：上海音楽院 (Shanghai Conservatory of Music)

日程：2013 年 7 月 11 日 (木) ~17 日 (水)

発表申込締切：2012 年 9 月 7 日 (300 語以内の英語要旨を送付)

(発表申込に関するガイドラインは 2012 年 4 月発行の会報に掲載されます)

学会テーマ：

1. Presentation and Representation in Minority Musics and Dance
2. Rethinking, Reconstruction, and Reinventing Musical Pasts
3. Ethnomusicology, Ethnochoreology and Education
4. Ritual, Religion and the Performing Arts
5. Screening Music and Dance
6. New Research

詳細は会報 119 号 (上記参照) をご覧ください。

## 5. 第 3 回 ICTM 東アジア音楽研究会 (Study Group for Musics of East Asia=MEA) シンポジウム\*のお知らせ

\*理事会の決定により、ICTM 内の研究会の会合は「シンポジウム」と呼ぶことになりました。

場所：香港中文大学 (Chinese University of Hong Kong)

日程：2012 年 7 月 31 日 (火) ~8 月 2 日 (木)

(発表申込はすでに締め切られました)

学会テーマ：

1. World Music and Asian Traditional Music
2. Music Education and Asian Identities
3. Cultural Destruction and Revival
4. Cultural Tourism and Cultural Policy
5. Music at East Asia's Cultural Crossroads
6. New Research

詳細は

[http://www.cuhk.edu.hk/mus/ICTM\\_MEA\\_2012/Home.html](http://www.cuhk.edu.hk/mus/ICTM_MEA_2012/Home.html)

をご覧ください。

## 6. その他の ICTM 研究会のシンポジウムのお知らせ

それぞれの詳細は会報 119 号 17 頁~をご覧ください。

### Applied Ethnomusicology 第 3 回シンポジウム

場所：キプロス共和国、ニコシア (Nicosia, Cyprus)

日程：2012 年 8 月 18~22 日

(発表申込はすでに締め切られました)

### Ethnochoreology 第 27 回シンポジウム

場所：アイルランド、リマリック

(Limerick, Ireland)

日程：2012 年 7 月 23~29 日

(発表申込はすでに締め切られました)

### Historical Sources of Traditional Music 第 19 回シンポジウム

場所：オーストリア、ウィーン (Vienna, Austria)

日程：2012年3月6～10日

(発表申込はすでに締め切られました)

#### Maqām 第8回シンポジウム

場所：ボスニア・ヘルツェゴヴィナ、サラエボ (Sarajevo, Bosnia and Herzegovina)

日程：2012年11月8～11日

発表申込締切：2012年2月29日

#### Mediterranean Music Studies 第9回シンポジウム

場所：マルタ共和国 (Malta)

日程：2012年7月10～12日

発表申込締切：2012年1月31日

#### Music and Minorities 第9回シンポジウム

場所：イスラエル、ツファット (Zefat, Israel)

日程：2012年8月7～12日

発表申込締切：2012年1月15日

#### Performing Arts of Southeast Asia 第2回シンポジウム

場所：フィリピン、マニラ (Manila)

日程：2012年6月14～19日

(発表申込はすでに締め切られました)

### 7. 第4回 ICTM 東アジア音楽研究会 (2014年) の主催機関の募集

これまでに MEA の大会は、台湾、中国、韓国で開催されました。2014年度(第4回)の大会開催地として、日本への期待が高まっています。会員の皆様の本務校地等で、国際会議の誘致に積極的なお考えをお持ちの大学や研究所がありましたら、担当委員 (minako.waseda@gmail.com) まで、是非、情報をお寄せください。よろしく願いいたします。

### 8. ICTM 担当委員からのお願い

#### 1) 一斉メールについて

東洋音楽学会員の皆様のうち ICTM 会員に対して、担当委員より不定期に ICTM に関連するお知らせを一斉送信しています。現在までに一斉メールを受信されていない方、また現在 ICTM 会員でない方で、今後 ICTM に関するメール連絡を希望される場合は、担当委員 (minako.waseda@gmail.com) までお知らせください。

#### 2) ICTM 関連の情報提供について

ICTM 内の研究会に所属している会員の方からの情報を募集します。お寄せいただいた情報を東洋音楽学会員に発信します。ご協力よろしく願いいたします。

### 会員の受賞

◇横道萬里雄氏が文化功労者に

本学会の名誉会員で東京芸術大学名誉教授の横道萬里雄氏が、2011年度の文化功労者に決定しました。選出理由は次のとおりです。「能楽研究を中心に、音楽など記録しにくい芸能要素を的確に記述する方法論の確立を追求。客観的な視点で、異種目作品でも共通基準で分析する研究方法の先鞭(せんべん)をつけた」。顕彰式は11月4日、東京・虎ノ門のホテルオークラで行われました。

### 通常理事会・総会議決事項のお知らせ

2011年9月17日(土)ルノール(貸会議室マイ・スペース)新宿3丁目ビッグスビル店4号室において第84回通常理事会が、2011年10月8日(土)京都教育大学講堂において第42回通常総会が行われました。以下にこれらの会議に於ける議決事項のうち、特記すべきものをお知らせします。通常総会の議決の詳細については、後掲の第42回通常総会議事録(抄)ならびに添付書類をご参照下さい。

#### 1) 新入会員について

理事会において、2011年4月以降に仮承認された正会員8名、学生会員2名が正式に承認されました。

#### 2) 参事および委員委嘱について

東日本支部参事を廣瀬沙耶佳氏、石渡響子氏、稲玉千瑛氏の3名に、会報担当参事を大久保真利子氏に、それぞれ委嘱することが承認されました。任期は、本日より本理事会が解散する2012年の総会までとなります。

#### 3) 定款変更について

一般社団法人への移行に向けて、定款を法人法(一般社団法人及び一般財団法人に関する法律)に適合するものに変更することが求められています。そこで「一般社団法人東洋音楽学会定款(案)」が提案され、承認されました。今回の定款変更は、法人法への適合が主目的です。主要な変更点は、次の通りです。

・総会、理事会の権限の明文化。

・総会の成立要件を現行の「会員現在数の3分の1以上出席」から「過半数」に変更。

・理事10名以上15名以内の内に、5名以内の「常務理事」を新たに設置。

・次年度予算は理事会(4月)で承認し、次年度の総会で報告する。

・総会の招集は、現行の「事業年度終了後2箇月以内」から、「事業年度終了後3箇月以内」に変更。

・資産および会計については、法人法で必要とされる条文以外は削除。

・公告の方法として、電子公告(ホームページ)による旨を明示。

なお、今後審査の過程で行政庁から修正を求められることが予想されるので、新しい定款は、確定してから次号以降の会報に全文を掲載します。総会時に配布した原案(【添付資料1】)をお持ちでない方で、ご入り用の方は学会事務所までご連絡下さい。

#### 4) 公益目的支出計画について

一般社団法人への移行に向けて、公益目的財産(本学会では正味財産額にあたる。平成22年度末20,153,322円)を公益のために行う事業で支出する計画を提出することが求められています。そこで、本学会が従来行ってきた主要な事業のうち、毎年の大会を除く、定例研究会、学会誌等の発行、関連学協会との連絡および協力、研究業績の奨励および研究業績の表彰等の事業を、継続事業として申請し、平成22年度の支出実績にもとづいて、8年間で消費する計画が提案され、承認されました。こちらも今後審査の過程で行政庁から修正を求められることが予想されますので、詳細は確定してから次号以降の会報に掲載します。総会時に配布した資料(【添付資料8】)をお持ちでない方で、ご入り用の方は学会事務所までご連絡下さい。

なお、一般社団法人への移行に関する進捗状況やご質問は、随時受け付けておりますので、お気軽に学会事務所までご連絡下さい。

## 会費納入のお願いとお知らせ

### ◇会費納入のお願い

2011年9月から新しい年度が始まりました。すでに多くの会員の皆様からお振り込みを頂いております。お振り込みがまだの方は、金額をお確かめのうえ、早速お払い込みくださいますよう、お願い申し上げます。振り込み用紙を紛失された場合は、学会封筒や機関誌の奥付に記載してあります学会口座宛にお振り込み下さい。なお、本会報と行き違いに納入がありました場合は、どうぞご容赦ください。

### ◇滞納がある場合

機関誌が受け取れないだけでなく、学会での発表や投稿が認められないことがありますので、ご注意ください。また、複数年にわたる滞納がある方は、分割して会費を納入

することも可能です。お支払いのあった年度から遡って機関誌を送らせていただきます。

### ◇大学院生・研究生などの割引・減額制度

大学院生の会費割引制度、研究生の会費減額制度などがありますが、この制度を利用するためには手続きが必要です。手続きがない場合は割引や減額を受けられませんのでご注意ください。詳しいことは、学会のHPをご覧ください。

### ◇卒論、修論発表者および、その指導教員の方々へ

例年、卒論、修論発表を期に入会された会員の会費滞納が発生いたします。先生方もこの点をご留意いただき、ご指導下さいますよう、よろしくお申し上げ下さい。

## 第29回 田邊尚雄賞アンケートのお願い

第29回田邊尚雄賞は、下記の要領で選考、授与されます。選考の対象としてふさわしい会員の業績について、情報を募集いたします。自薦他薦を問いません。

対象となる業績:2011(平成23)年1月1日から12月31日までに発行されたもの。

アンケート募集期間:2012(平成24)年2月7日(火)正午まで。

アンケート記入事項:著者名・著書名・発行年月日・発行所名。

なお、論文の場合は、上記に加え、掲載誌名・巻次・編集者名・論文頁数を記入してください。

アンケート送り先:

(社)東洋音楽学会第29回田邊尚雄賞選考委員会

(郵送)〒110-0005 東京都台東区上野3-6-3 三春ビル  
307号

(FAX) 03-3832-5152

(電子メール) LEN03210@nifty.com

選考委員:岡崎淑子、ジェラルド・グローマー、薦田治子、高松晃子、田中多佳子

## 東日本支部からのお知らせ

東日本支部では、今後の例会についてのご案内を、印刷物(『東日本支部だより』、葉書、チラシなど)と学会ホームページを通して行っております。学会ホームページには、次回の例会の概要も掲載しておりますので、どうぞ、ご覧ください。また、今後の予定をできるだけ早く皆様にお伝えするために、ホームページでは、情報の更新を随時行っております。どうぞ、ご活用ください。

## 会員異動

名簿記載事項の訂正・変更・追加

(2011年8月～11月、訂正箇所は下線部)

会員異動は、個人情報保護のため削除しました。

## 図書・資料等の受贈

(2011年8月～11月、到着順)

- 『阪大音楽学報』第9号 大阪大学音楽学研究室  
『能楽資料センター紀要』No.22  
武蔵野大学能楽資料センター  
『News Letter』No.11  
早稲田大学演劇博物館グローバルCOEプログラム  
『東方學會報』No.100 (財)東方学会  
『楽道』8,9,10,11月号 正派邦楽会  
『日本音楽学会会報』第83号  
『音楽学』第57巻1号 日本音楽学会  
『逸脱の唱声 歌謡の精神史』 永池健二著 梶社  
『雅楽だより』第27号 雅楽協議会  
『アイヌ語地名を歩く—山田秀三の地名研究から—  
2011・稚内』(企画展図録)  
『アイヌ語地名を歩く—山田秀三の地名研究から—  
2011・名寄』(企画展図録)  
『北海道立アイヌ民族文化研究センター年報2010』  
北海道立アイヌ民族文化研究センター

## 新刊書籍

- 『浅野梅若』 倉田耕、無明舎出版、1,890円  
『歌とともに生きる：中国・貴州省苗族の村』  
田中一夫、岩波書店、5,775円  
『オーケストラの文明史』 小宮正安、春秋社、2,310円  
『踊る、舞踊譜』  
赤川智保、吉岡精一、共同文化社、1,680円  
『音楽が降りてくる』 湯浅学、河出書房新社、2,940円  
『音楽、未知への旅』 福中琴子、洪水企画、2,100円  
『音聖・筒美京平』 田中忠徳、東洋出版、1,260円  
『隠れた音楽家たち：イングランドの町の音楽作り』  
ルース・フィネガン、湯川新、法政大学出版局、6,600円  
『上方伝統芸能あんない』 堀口初音、創元社、1,680円  
『黒と白のジャズ史』 中山康樹、平凡社、1,890円  
『芸十夜(復刻版)』  
坂東三津五郎、武智鉄二、雄山閣、3,150円  
『幸四郎的奇跡のはなし』  
松本幸四郎、東京新聞、1,890円  
『世界の至宝：組踊』 琉球新報社、980円  
『宝塚幻のラインダンス』  
辻則彦、神戸新聞総合出版センター、1,575円  
『なぜ宝塚歌劇の男役はカッコイイのか』  
中本千晶、東京堂出版、1,680円

- ◆住所・所属等に変更ありましたら事務局までご連絡ください。(機関誌別冊会員名簿とじ込みの変更届用はがき、またはファクス、E-mail等でも結構です)
- ◆改姓・改名のお届けには、ご希望の表記法をお書き添えください。(複数表記される場合、どちらを主な表記にするのか等)
- ◆事務局に登録はされても、公表を希望されない情報等がある場合には、その旨ご明記ください。

- 『日本の伝統祭り手帳2012』 技術評論社、1,239円  
『人形浄瑠璃のドラマツルギー』  
伊藤りさ、早稲田大学出版部、7,770円  
『能楽からみた中世』 脇田晴子、6,090円  
『ピアニスト小倉末子と東京音楽学校』  
津上智実、橋本久美子、大隅欣也、東京藝術大学出版会、3,045円  
『ピアノを弾く脳：音楽演奏を科学する』  
古屋晋一、春秋社、1,890円  
『ピーター・バラカン音楽日記』  
ピーター・バラカン、集英社インターナショナル、1,575円  
『深読みミュージカル』 本橋哲也、青土社、2,310円  
『文化系のためのヒップホップ入門』  
長谷川町蔵、大和田俊之、アルテス、1,890円  
『丸本歌舞伎(復刻版)』 戸板康二、講談社、1,470円  
『読んでナットク! やさしい楽典入門』  
自由現代、1,365円  
『ライブシーンよ、どこへいく』  
宮入恭平、佐藤生実、青弓社、2,100円

## 新発売視聴覚資料

(ゴシック体の項目は賛助会員による刊行物)

### ●CD

- 『安藤政輝：宮城道雄を弾く2』 VZCG-754、3,675円  
『観世流謡曲名曲撰(十一)高砂』 COCJ-37071、3,000円  
『観世流謡曲名曲撰(十二)山姥』 COCJ-37072、3,000円  
『観世流謡曲名曲撰(十三)忠度』 COCJ-37073、3,000円  
『観世流謡曲名曲撰(十四)井筒』 COCJ-37074、3,000円  
『観世流謡曲名曲撰(十五)砧』 COCJ-37075、3,000円  
『観世流謡曲名曲撰(十六)葵上』 COCJ-37076、3,000円  
『観世流謡曲名曲撰(十七)安宅』 COCJ-37077、3,000円  
『観世流謡曲名曲撰(十八)隅田川』 COCJ-37078、3,000円  
『観世流謡曲名曲撰(十九)善知鳥』 COCJ-37079、3,000円  
『観世流謡曲名曲撰(二十)百萬』 COCJ-37080、3,000円  
『芸道無涯：長谷川裕二 じょんから口説きと名演集』  
COCJ-37010、2,100円  
『甦る栄光の蓄音器』 VZCG-752、2,500円  
『SP盤復刻：日本民謡の名人をたずねて(上)』  
COCJ-37028、2,000円  
『SP盤復刻：日本民謡の名人をたずねて(中)』  
COCJ-37029、2,000円  
『SP盤復刻：日本民謡の名人をたずねて(下)』  
COCJ-37030、2,000円

### ●DVD

- 『第十五回日本伝統文化振興財団賞：山本泰太郎(大蔵流  
狂言方)』 VZBG-41、3,500円

## 編集後記

今号は、第62回大会のレポートを中心にお送りします。傍聴記は、会員のみなさんに手分けをして書いていただいていますので、文体や着想が多様です。今回はそのヴァリエティを楽しんでいただけるようそのまま掲載しましたが、ご意見がありましたらどうぞお寄せください。執筆者の皆様ありがとうございました。また、さきの総会では、一般社団法人への移行に伴う新定款の承認がなされました。その件を含め、添付資料の総会資料をいちどご確認ください。

会報は、1月、5月、9月の年3回、通常はメール便で発送しています。未着の場合は事務局までご連絡ください。学会ホームページでもご覧いただけます。(高松晃子)

### 会報編集委員

理事：高松晃子、横井雅子

参事：大久保真利子、荻野珠、柴田真希、橋本かおる、  
柳澤久美子、山口かおり

## 第42回 通常総会議事録 (抄) ・添付資料

1. 日時:平成 23 年 10 月 8 日(土) 16:40~18:20
2. 場所:京都教育大学 講堂
3. 出席者:399 名 (書面出席 333 名を含む)  
〔備考〕正会員 648 名、定足数 217 名
4. 議事事項と審議の経過および結果

定款第 25 条により金城厚会長が議長となり、定足数を確認の上、開会を宣言した。次いで定款施行細則第 16 条により副議長を要請し、植村幸生、谷正人両氏が選出された後、以下の議事を開始した。

### 第 1 号議案 定款変更の件

遠藤徹理事 (総務担当) より定款変更【添付資料 1】について説明があった。議長はこの承認を議場に諮ったところ、定款第 42 条に基づき 4 分の 3 以上の賛成 (出席者 399 名、賛成 377、反対 2、保留 20、書面議決による原案賛否を含む) を得た為、可決承認された。また審査の過程で字句の修正等が求められた場合の対応については、理事会に一任する旨、あわせて承認された。

### 第 2 号議案 平成 22 (2010) 年度事業報告の件

小塩さとみ理事 (総務担当) より「平成 22 (2010) 年度事業報告」【添付資料 2】について説明があった。議長がこの承認を議場に諮ったところ、絶対多数 (書面議決による原案賛成を含む) の賛成を得て可決承認された。

### 第 3 号議案 平成 22 (2010) 年度収支決算の件

薦田治子理事 (経理担当) が「平成 22 (2010) 年度収支決算」【添付資料 3】について説明を行った。議長がこの承認を議場に諮ったところ、絶対多数 (書面議決による原案賛成を含む) の賛成を得て可決承認された。

### 第 4 号議案 平成 23 (2011) 年 8 月 31 日現在財産目録および貸借対照表の件

薦田治子理事 (経理担当) が「平成 23 (2011) 年 8 月 31 日現在財産目録および貸借対照表」【添付資料 4】について説明を行った。また、竹内道敬監事が「監査報告書」【添付資料 9】について説明した。議長がこの承認を議場に諮ったところ、絶対多数 (書面議決による原案賛成を含む) の賛成を得て可決承認された。

### 第 5 号議案 平成 23 (2011) 年 8 月 31 日現在会員異動状況の件

遠藤徹理事 (総務担当) が「平成 23 (2011) 年 8 月 31 日現在会員異動状況」【添付資料 5】について説明を行った。議長がこの承認を議場に諮ったところ、絶対多数 (書面議決による原案賛成を含む) の賛成を得て可決された。

### 第 6 号議案 平成 23 (2011) 年度事業計画の件

小塩さとみ理事 (総務担当) が「平成 23 (2011) 年度事業計画」【添付資料 6】について説明を行った。議長がこの承認を議場に諮ったところ、絶対多数 (書面議決による原案賛成を含む) の賛成を得て可決承認された。

### 第 7 号議案 平成 23 (2011) 年度収支予算の件

薦田治子理事 (経理担当) が「平成 23 (2011) 年度収支予算」【添付資料 7】について説明を行った。議長がこの承認を議場に諮ったところ、絶対多数 (書面議決による原案賛成を含む) の賛成を得て可決承認された。

### 第 8 号議案 その他

#### ・公益目的支出計画について

早稲田みな子理事 (経理担当) が「一般社団法人移行のための『公益目的支出計画 (案)』の概要」【添付資料 8】について説明を行った。また薦田治子理事 (経理担当) から補足説明があった。議長がこの承認を議場に諮ったところ、絶対多数 (書面議決による原案賛成を含む) の賛成を得て可決された。

#### ・その他

会計年度を 4 月始まりへ移行してはどうかとの提案があった。本件について遠藤徹理事 (総務担当) より理事会での検討結果、会計年度の変更は学会の運営等に多大な影響を及ぼすので、会員からの議論の成熟を待ってから改めて検討したい旨の報告があった。また金城厚会長から検討結果の経緯について補足説明があった。

.....

#### 【以下、添付資料】

【添付資料 2】平成 22 年度 (2010 年度) 事業報告 (自平成 22 年 (2010 年) 9 月 1 日 至平成 23 年 (2011 年) 8 月 31 日)

〔1〕研究発表会および学術講演会の開催 (定款第 5 条 1)

(1) 公開講演会の実施 (定款施行細則第 3 条 1)

・日時 2010 年 11 月 13 日

・会場 東京学芸大学

・課題 「日中仏教音楽の諸相」

(2) 研究発表大会の実施 (定款施行細則第 3 条 2)

・日時 2010 年 11 月 14 日

・会場 東京学芸大学

・発表件数 30 件

(3) 次年度大会の準備

・日時 2011 年 10 月 8 日-9 日

・会場 京都教育大学

(4) 定例研究会 (定款施行細則第 3 条 3)

○東日本支部

・回数 6 回 (第 53 回~第 58 回 12・2・4/2・4/23・6・7 月)

・会場 東京芸術大学ほか

・内容 研究発表、レクチャーコンサート、卒業論文・修士論文・博士論文発表ほか

○西日本支部

・回数 4回(第250回～第253回 1・3・4・6月)  
・会場 国立民族学博物館ほか  
・内容 映像上演と討論、講演、修士論文ほか

○沖縄支部

・回数 1回(第55回 5月)  
・会場 沖縄県立芸術大学  
・内容 調査報告・博士論文発表

[2] 学会誌および学術図書の刊行(定款第5条2)

(5)機関誌『東洋音楽研究』の刊行(定款施行細則第3条4)

○第76号の編集・刊行

・内容 会員の論文、研究ノート、第61回大会公開講演、書評・視聴覚資料評・追悼記事・彙報ほか

(6)会報の刊行

○『東洋音楽学会会報』

・第80号(2010年9月)、第81号(2011年1月)、第82号(2011年5月)

・内容 会員への諸通知、理事会・総会記録、大会開催案内、大会レポート、図書・視聴覚資料紹介、会員消息

○『東日本支部だより』

・第24号(2010年12月)、第25号(2011年3月)、第26号(2011年6月)

・内容 東日本支部定例研究会の開催案内・報告、会員の声ほか

○『西日本支部だより』

・第68号(2010年1月)、第69号(2011年5月)

・内容 西日本支部定例研究会の開催案内・報告、支部会員への諸通知ほか

○『沖縄支部通信』

なし

[3] 関連学協会との連絡および協力(定款第5条3)

(7)日本学術会議への協力

○日本学術会議協力学術研究団体として協力

(8)音楽文献目録委員会への参加

○会員三名を委員として派遣

(9)国際伝統音楽学会(ICTM)への協力

○日本国内委員会として加盟

(10)芸術学関連学会連合への参加

○会員一名を委員として派遣

[4] 研究の奨励および研究業績の表彰(定款第5条4)

(11)「田邊尚雄賞」(定款施行細則第3条5)

○第27回田邊尚雄賞の授賞

・日時 2010年11月13日

・受賞者および授賞対象

1. Hugh de Ferranti "The Last Biwa Singer: A Blind Musician in History, Imagination and Performance" (New York, Cornell University, 2009年発行)
2. 塚原康子『明治国家と雅楽—伝統の近代化/国楽の創成』

(有志舎、2009年12月発行)

○第28回田邊尚雄賞の選考と発表

・受賞者および授賞対象

水野信男(兼編者)、新井裕子、飯野りさ、斎藤完、谷正人、樋口美治、米山知子

『アラブの音文化〜グローバル・コミュニケーションへのいざない』(スタイルノート、2010年発行)

[5] 研究および調査(定款第5条5)

(12)国内または国外における学術調査および研究

とくになし

[6] その他目的を達成するために必要な事項(定款第5条6)

(13)東洋音楽学会ホームページを通して行なう学会情報の提供

(14)独立行政法人科学技術振興機構(JST)電子アーカイブ事業への参加

(15)一般社団法人への移行の準備

【添付資料6】平成23年度(2011年度)事業計画

(自平成23年(2011年)9月1日 至平成24年(2012年)8月31日)

[1] 研究発表会および学術講演会の開催(定款第5条1)

(1)公開講演会の実施(定款施行細則第3条1)

・日時 2011年10月8日

・会場 京都教育大学

・課題 「日本に息づく韓国音楽」

(2)研究発表大会の実施(定款施行細則第3条2)

・日時 2011年10月9日

・会場 京都教育大学

・発表件数 14件

(3)次年度大会の準備

・日時 2012年10月(予定)

・会場 未定

(4)定例研究会(定款施行細則第3条3)

○東日本支部

・回数 7回(第59回～第65回 9・12・2・3・4・6・7月)

・会場 聖心女子大学ほか

・内容 研究発表、卒業論文・修士論文・博士論文発表ほか

○西日本支部

・回数 5回(第254回～第258回 10・12・3・4・5月)

・会場 国立民族学博物館ほか

・内容 研究発表、修士論文・博士論文発表ほか

○沖縄支部

・回数 3回(第56回～第58回 12・4・7月)

・会場 沖縄県立芸術大学

・内容 研究発表、修士論文・博士論文発表ほか

[2] 学会誌および学術図書の刊行(定款第5条2)

(5)機関誌『東洋音楽研究』の刊行(定款施行細則第3条4)

○第77号の編集・刊行

- ・内容 会員の論文、研究ノート、研究動向、書評・視聴覚資料評・書籍紹介・視聴覚資料紹介ほか

(6)会報の刊行

○『東洋音楽学会会報』

- ・第83号(2011年9月)、第84号(2012年1月)、第85号(2012年5月)

- ・内容 会員への諸通知、理事会・総会記録、大会開催案内、大会レポート、図書・視聴覚資料紹介、会員消息

○『東日本支部だより』

- ・第27号(2011年11月)、第28号(2012年3月)、第29号(2012年6月)

- ・内容 東日本支部定例研究会の開催案内・報告、会員の声ほか

○『西日本支部だより』

- ・第70号(2011年9月)、第71号(2011年12月)、第72号(2012年3月)、第73号(2012年8月)

- ・内容 西日本支部定例研究会の開催案内・報告、支部会員への諸通知ほか

○『沖縄支部通信』

- ・第34号(2011年12月)、第35号(2012年7月)

- ・内容 例会案内、発表内容・質疑記録

[3] 関連学協会との連絡および協力(定款第5条3)

(7)日本学術会議への協力

○日本学術会議協力学術研究団体として協力

(8)音楽文献目録委員会への参加

○会員三名を委員として派遣

(9)国際伝統音楽学会(ICTM)への協力

○日本国内委員会として加盟

(10)藝術学関連学会連合への参加

○会員一名を委員として派遣

[4] 研究の奨励および研究業績の表彰(定款第5条4)

(11)「田邊尚雄賞」(定款施行細則第3条5)

○第28回田邊尚雄賞の授賞

- ・日時 2011年10月8日

- ・受賞者および受賞対象

水野信男(兼編者)、新井裕子、飯野りさ、斎藤完、谷正人、樋口美治、米山知子

『アラブの音文化〜グローバル・コミュニケーションへのいざない』(スタイルノート、2010年発行)

○第29回田邊尚雄賞の選考と発表

(2012年4月予定)

[5] 研究および調査(定款第5条5)

(12)国内または国外における学術調査および研究

とくになし

[6] その他目的を達成するために必要な事項(定款第5条6)

(13)東洋音楽学会ホームページを通して行なう学会情報の提供

(14)独立行政法人科学技術振興機構(JST)電子アーカイブ事業への参加

(15)一般社団法人への移行の準備

【添付資料3-2】

正味財産増減計算書内訳表

平成22年9月1日から平成23年8月31日まで

(単位:円)

勘定科目	(本部)	(大会会計)	(東日本支部)	(西日本支部)	(沖縄支部)	内部取引消去	合計
<b>I 事業活動収支の部</b>							
1. 経常収支の部							
(1) 事業活動収入							
基本財産運用収入	8,957	0	0	0	0	0	8,957
基本財産受取利息	8,957	0	0	0	0	0	8,957
特定資産運用益	63,682	0	0	0	0	0	63,682
特定資産受取利息	63,682	0	0	0	0	0	63,682
受取人會金	0	0	0	0	0	0	0
會費収入	4,585,000	0	0	0	0	0	4,585,000
正會員受取會費	4,185,000	0	0	0	0	0	4,185,000
特別會員受取會費	200,000	0	0	0	0	0	200,000
賛助會員受取會費	200,000	0	0	0	0	0	200,000
事業収入	456,000	1,037,900	0	0	2,400	0	1,496,300
機関誌発行収入	456,000	0	0	0	0	0	456,000
大会広告料収入	0	570,000	0	0	0	0	570,000
大会参加費収入	0	171,500	0	0	0	0	171,500
懇親會費収入	0	234,000	0	0	0	0	234,000
食料費収入	0	62,400	0	0	0	0	62,400
その他事業収入	0	0	0	0	2,400	0	2,400
受取補助金等	0	0	0	0	0	0	0
受取負担金	0	0	0	0	0	0	0
受取寄付金	0	0	0	0	0	0	0
雑収入	8,188	44,310	46	32	14	0	52,590
受取利息	8,188	0	46	32	14	0	8,280
雑収入	0	44,310	0	0	0	0	44,310
他會計振替額	32,198	0	556,961	364,514	1,106	△ 954,779	0
本部會計振替額	0	0	556,961	364,514	1,106	△ 922,581	0
大会會計振替額	32,198	0	0	0	0	△ 32,198	0
経常収益計	5,154,025	1,082,210	557,007	364,546	3,520	△ 954,779	6,206,529
(2) 事業活動支出							
事業費	5,117,704	1,050,012	557,007	364,546	3,520	0	7,092,789
機関誌作成費	953,032	0	0	0	0	0	953,032
支払負担金	187,000	0	0	0	0	0	187,000
印刷製本費	194,722	220,287	214,515	158,195	0	0	787,719
広報普及費	219,839	0	0	0	0	0	219,839
例會運営費	0	0	53,601	64,500	0	0	118,101
田邊尚雄賞賞金	170,468	0	0	0	0	0	170,468
通信費	483,260	82,860	224,020	34,770	3,520	0	828,430
旅費交通費	354,890	77,790	4,460	31,370	0	0	468,510
給料手当	1,475,179	69,000	27,625	6,800	0	0	1,578,604
法定福利費	4,376	0	0	0	0	0	4,376
消耗品費	0	4,472	105	36,580	0	0	41,157
事務用品費	23,612	9,683	10,416	15,930	0	0	59,641
事務所費	800,573	0	0	0	0	0	800,573
會議費	93,392	31,185	18,275	13,464	0	0	156,316
會場運営費	0	33,307	0	0	0	0	33,307
諸謝金	0	272,700	0	0	0	0	272,700
租税公課	2,400	0	0	0	0	0	2,400
食料費	0	98,728	0	0	0	0	98,728
慶弔費	63,000	0	0	0	0	0	63,000
手数料	11,020	0	3,990	2,937	0	0	17,947
減価償却費	32,237	0	0	0	0	0	32,237
懇親會費	0	150,000	0	0	0	0	150,000
雑費	48,704	0	0	0	0	0	48,704
管理費	400,050	0	0	0	0	0	400,050
事務用品費	22,050	0	0	0	0	0	22,050
事務委託費	378,000	0	0	0	0	0	378,000
他會計振替額	922,581	32,198	0	0	0	△ 954,779	0
本部會計振替額	0	32,198	0	0	0	△ 32,198	0
東日本支部會計振替額	556,961	0	0	0	0	△ 556,961	0
西日本支部會計振替額	364,514	0	0	0	0	△ 364,514	0
沖縄支部會計振替額	1,106	0	0	0	0	△ 1,106	0
経常費用計	6,440,335	1,082,210	557,007	364,546	3,520	△ 954,779	7,492,839
評価損益調整前経常増減額	△ 1,286,310	0	0	0	0	0	△ 1,286,310
基本財産評価損益等	0	0	0	0	0	0	0
特定資産評価損益等	0	0	0	0	0	0	0
投資有価証券評価損益等	0	0	0	0	0	0	0
評価損益等計	0	0	0	0	0	0	0
当期経常増減額	△ 1,286,310	0	0	0	0	0	△ 1,286,310
2. 経常外収支の部							
(1) 経常外収益							
固定資産売却益	0	0	0	0	0	0	0
固定資産受贈益	0	0	0	0	0	0	0
経常外収益計	0	0	0	0	0	0	0
(2) 経常外費用							
固定資産売却損	0	0	0	0	0	0	0
固定資産減損損失	0	0	0	0	0	0	0
災害損失	0	0	0	0	0	0	0
経常外費用計	0	0	0	0	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0	0	0	0	0
当期一般正味財産増減額	△ 1,286,310	0	0	0	0	0	△ 1,286,310
一般正味財産増減額	△ 1,286,310	0	0	0	0	0	△ 1,286,310
一般正味財産期首残高	21,439,632	0	0	0	0	0	21,439,632
一般正味財産期末残高	20,153,322	0	0	0	0	0	20,153,322
<b>II 投資活動収支の部</b>							
受取補助金等	0	0	0	0	0	0	0
受取負担金	0	0	0	0	0	0	0
受取寄付金	0	0	0	0	0	0	0
固定資産受贈益	0	0	0	0	0	0	0
基本財産評価益	0	0	0	0	0	0	0
特定資産評価益	0	0	0	0	0	0	0
基本財産評価損	0	0	0	0	0	0	0
特定資産評価損	0	0	0	0	0	0	0
一般正味財産への振替額	0	0	0	0	0	0	0
当期指定正味財産増減額	0	0	0	0	0	0	0
指定正味財産期首残高	0	0	0	0	0	0	0
指定正味財産期末残高	0	0	0	0	0	0	0
<b>III 財務活動収支の部</b>							
正味財産期末残高	20,153,322	0	0	0	0	0	20,153,322

【添付資料 4-1】

財 産 目 録

平成 23 年 8 月 31 日現在

(単位：円)

貸借対照表科目		場所・物量等	使用目的等	金額
<b>(流動資産)</b>				
現預金				
現金		本部	現金手許有高	3,596
現金		本部	機関誌編集委員会現金手許有高	344,119
現金、預金		大会会計		400,000
現金		東日本支部	現金手許有高	22,958
現金		沖縄支部	現金手許有高	16,843
振替口座			郵便振替口座	4,672
通常郵便貯金			上野黒門郵便局	36,599
普通預金			三菱 UFJ 信託銀行上野支店	513,982
普通預金			三菱東京 UFJ 銀行日本橋支店	92,369
普通預金		東日本支部		3,161
普通預金		西日本支部		35,486
普通預金		沖縄支部		42,051
未収入金		アゲ`ミ`ミュージック	機関誌販売代金	1,812,000
		大会会計	大空社	35,000
<b>流動資産合計</b>				<b>3,362,836</b>
<b>(固定資産)</b>				
基本財産	基本財産			
	定期預金		三菱 UFJ 信託銀行上野支店	5,200,000
特定資産	特定資産			
	定額郵便貯金	研究推進事業基金	上野黒門郵便局	6,240,000
	定期預金	研究推進事業基金	三菱 UFJ 信託銀行上野支店	1,953,334
	定期預金	田邊尚雄賞基金	三菱 UFJ 信託銀行上野支店	3,050,000
その他固定資産	その他固定資産			
	什器備品		事務用機器等	96,721
	書籍			310,600
	電話加入権	2 本		149,968
	差入敷金		事務所敷金	300,000
<b>固定資産合計</b>				<b>17,300,623</b>
<b>資産合計</b>				<b>20,663,459</b>
<b>(流動負債)</b>				
	未払金		事業用経費	202,137
	預り金		源泉所得税	12,000
	前受金		平成 22 年度以降会費前受	281,000
			キングレコード(株)	15,000
<b>流動負債合計</b>				<b>510,137</b>
<b>(固定負債)</b>				
	該当なし			
<b>固定負債合計</b>				<b>0</b>
<b>負債合計</b>				<b>510,137</b>
<b>正味財産</b>				<b>20,153,322</b>

公益目的保有財産の明細

財産種別	公益認定前取得 不可欠特定財産	公益認定後取得 不可欠特定財産	その他の 公益目的保有財産	使用事業
該当なし				
合計	0	0	0	

## 【添付資料4-2】

## 貸借対照表

平成23年8月31日現在

(単位:円)

勘定科目	当年度	前年度	増減
<b>I 資産の部</b>			
1. 流動資産			
現金預金	1,515,836	3,029,456	△ 1,513,620
未収金	1,847,000	1,356,000	491,000
前渡金	400,000	2,000	398,000
流動資産合計	3,762,836	4,387,456	△ 624,620
2. 固定資産			
(1) 基本財産			
定期預金	5,200,000	5,200,000	0
基本財産合計	5,200,000	5,200,000	0
(2) 特定資産			
研究推進事業基金	8,193,334	8,194,946	△ 1,612
田邊尚雄基金	3,050,000	3,200,000	△ 150,000
特定資産合計	11,243,334	11,394,946	△ 151,612
(3) その他固定資産			
什器備品	96,721	128,958	△ 32,237
書籍	310,600	310,600	0
差入敷金	300,000	300,000	0
電話加入権	149,968	149,968	0
その他の固定資産合計	857,289	889,526	△ 32,237
固定資産合計	17,300,623	17,484,472	△ 183,849
資産合計	21,063,459	21,871,928	△ 808,469
<b>II 負債の部</b>			
1. 流動負債			
未払金	202,137	200,000	2,137
預り金	12,000	13,296	△ 1,296
前受金	696,000	219,000	477,000
流動負債合計	910,137	432,296	477,841
2. 固定負債			
固定負債合計	0	0	0
負債合計	910,137	432,296	477,841
<b>III 正味財産の部</b>			
1. 指定正味財産			
指定正味財産合計	0	0	0
2. 一般正味財産			
その他一般正味財産	20,153,322	21,439,632	△ 1,286,310
一般正味財産	20,153,322	21,439,632	△ 1,286,310
正味財産合計	20,153,322	21,439,632	△ 1,286,310
負債及び正味財産合計	21,063,459	21,871,928	△ 808,469

【添付資料7】

収支予算書

平成23年9月1日から平成24年8月31日まで

(単位:円)

勘定科目	予算額	前年度予算額	増減額	備考
<b>I 事業活動収支の部</b>				
<b>1. 事業活動収入</b>				
基本財産運用収入	9,000	20,000	△ 11,000	
基本財産利息収入	9,000	20,000	△ 11,000	
特定資産運用収入	64,000	0	64,000	
特定資産利息収入	64,000	0	64,000	
入会金収入	0	0	0	
会費収入	5,800,000	6,000,000	△ 200,000	
正会員会費収入	5,400,000	5,600,000	△ 200,000	
賛助会員会費収入	200,000	200,000	0	
特別会員会費収入	200,000	200,000	0	
事業収入	1,193,000	1,293,000	△ 100,000	
機関誌発行収入	450,000	450,000	0	
広告料収入	400,000	500,000	△ 100,000	
大会参加費収入	100,000	100,000	0	
懇親会費収入	240,000	240,000	0	
その他事業収入	3,000	3,000	0	
補助金等収入	0	0	0	
負担金収入	0	0	0	
寄付金収入	0	0	0	
雑収入	8,000	40,000	△ 32,000	
受取利息収入	8,000	30,000	△ 22,000	
雑収入	0	10,000	△ 10,000	
他会計振替額	1,410,000	1,400,000	10,000	
本部会計振替収入	1,410,000	1,400,000	10,000	
<b>事業活動収入計</b>	<b>8,484,000</b>	<b>8,753,000</b>	<b>△ 269,000</b>	
<b>2. 事業活動支出</b>				
<b>事業費支出</b>	<b>7,839,500</b>	<b>7,771,000</b>	<b>68,500</b>	
機関誌作成費支出	1,200,000	1,200,000	0	
負担金支出	200,000	200,000	0	
印刷製本費支出	900,000	990,000	△ 90,000	
広報普及費支出	370,000	300,000	70,000	
例会運営費支出	195,000	190,000	5,000	
田邊尚雄賞支出	150,000	150,000	0	
通信費支出	910,000	775,000	135,000	
旅費交通費支出	601,000	391,000	210,000	
給料手当支出	1,738,000	1,580,000	158,000	
法定福利費支出	4,500	0	4,500	
消耗什器備品費支出	20,000	0	20,000	
事務用品費支出	68,000	88,000	△ 20,000	
事務所費支出	800,000	720,000	80,000	
会議費支出	150,000	126,000	24,000	
会場費支出	20,000	20,000	0	
諸謝金支出	160,000	200,000	△ 40,000	
食料費支出	60,000	0	60,000	
慶弔費支出	30,000	0	30,000	
手数料支出	12,000	0	12,000	
懇親会費支出	240,000	0	240,000	
事務委託費支出	0	450,000	△ 450,000	
雑支出	11,000	391,000	△ 380,000	
<b>管理費支出</b>	<b>547,800</b>	<b>412,000</b>	<b>135,800</b>	
給料手当支出	0	160,000	△ 160,000	
通信運搬費支出	0	45,000	△ 45,000	
旅費交通費支出	0	60,000	△ 60,000	
事務用品費支出	37,800	7,000	30,800	
事務所費支出	0	80,000	△ 80,000	
事務委託費支出	510,000	50,000	460,000	
雑支出	0	10,000	△ 10,000	
<b>他会計振替額</b>	<b>1,410,000</b>	<b>1,800,000</b>	<b>△ 390,000</b>	
大会会計振替額	400,000	800,000	△ 400,000	
東日本支部会計振替額	560,000	540,000	20,000	
西日本支部会計振替額	400,000	400,000	0	
沖縄支部会計振替額	50,000	60,000	△ 10,000	
<b>事業活動支出計</b>	<b>9,797,300</b>	<b>9,983,000</b>	<b>△ 185,700</b>	
<b>事業活動収支差額</b>	<b>△ 1,313,300</b>	<b>△ 1,230,000</b>	<b>△ 83,300</b>	
<b>II 投資活動収支の部</b>				
<b>1. 投資活動収入</b>				
基本財産取崩収入	0	0	0	
特定基金取崩収入	1,400,000	1,410,000	△ 10,000	
田邊尚雄賞基金取崩収入	150,000	150,000	0	
研究推進事業基金取崩収入	1,250,000	1,260,000	△ 10,000	
固定資産売却収入	0	0	0	
投資有価証券売却収入	0	0	0	
敷金・保証金戻収入	0	0	0	
<b>投資活動収入計</b>	<b>1,400,000</b>	<b>1,410,000</b>	<b>△ 10,000</b>	
<b>2. 投資活動支出</b>				
基本財産取得支出	0	0	0	
特定資産取得支出	0	0	0	
固定資産取得支出	0	0	0	
投資有価証券取得支出	0	0	0	
敷金・保証金支出	0	0	0	
<b>投資活動支出計</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	
<b>投資活動収支差額</b>	<b>1,400,000</b>	<b>1,410,000</b>	<b>△ 10,000</b>	
<b>III 財務活動収支の部</b>				
<b>1. 財務活動収入</b>				
借入金収入	0	0	0	
<b>財務活動収入計</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	
<b>2. 財務活動支出</b>				
借入金返済支出	0	0	0	
<b>財務活動支出計</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	
<b>財務活動収支差額</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	
<b>IV 予備費支出</b>				
<b>予備費支出</b>	<b>△ 86,700</b>	<b>△ 180,000</b>	<b>93,300</b>	
当期収支差額	0	0	0	
前期繰越収支差額	0	0	0	
次期繰越収支差額	0	0	0	

【添付資料5】

会員の異動状況 (平成22年.9.1～平成23年.8.31)

(2010年)

(2011年)

●印・・・東日本支部

◆印・・・西日本支部

■印・・・沖縄支部

#印・・・海外在住

会員種別	会 員 数		増減	異 動 の 内 訳
	2010.9.1	2011.8.31		
正会員	656	650	-6	新入+18、学生より+4、退会-27、逝去-1
学生会員	10	12	+2	新入+6、正会員へ-4
賛助会員	2	2	0	
特別会員	8	8	0	
名誉会員	3	2	-1	逝去-1
	679	674	-5	

【添付資料9】

監 査 報 告 書

社団法人 東洋音楽学会

会長 金城 厚 殿

平成23年9月22日

監 事 蒲生 美津子

監 事 竹内 道敬

私たちは、平成22年9月1日から平成23年8月31日までの平成22年度における会計及び業務の監査を行い、次のとおり報告する。

1. 監査の方法の概要

- (1) 会計監査について、会計帳簿並びに関係書類の閲覧など必要と思われる監査手続きを用いて財務諸表等の正確性を検討した。
- (2) 業務監査について、理事会及びその他の会議に出席し、関係書類の閲覧など必要と思われる監査手続きを用いて業務執行の妥当性を検討した。

2. 監査意見

- (1) 平成22年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、正味財産増減計算書及び財産目録並びに収支計算書は会計帳簿の記載金額と一致し、法人の財産状態及び収支状況を正しく表示していると認める。
- (2) 事業報告書の内容は真実であると認める。
- (3) 理事の職務執行に関する不正の行為又は法令もしくは定款に違反する重大な事項はないと認める。